

今までの学校評価から、次年度に向けた方向性をまとめ、更に今後の課題や検討を要する内容については、下記下線部のようにまとめ、その改善・解決策検討を各部で行い、更に全体で協議した。これらの合意事項は次年度各校務分掌計画にも可能な範囲で盛り込まれる予定である。次年度学校経営方針やそれを受けた教育計画等は、新年度学校長の責任のもとに作成し、学校運営協議会で基本方針の承認を受けることが必要ではあるが、カリキュラム・マネジメントによる職員の主体性と創意工夫を生かした特色ある教育活動実現のためには、前年度のこうした過程が必要であるように思う。

目指す児童像1 あいさつや返事がしっかりできて、礼儀正しい子

○重点「あいさつ・返事がきちんとできる子の育成」成果はW4（ワースト4）、重点「人を気遣う言葉がきちんと言える子の育成」成果はW3。あいさつは、朝のあいさつ運動で成果が見られるが、まだ十分とは言えない。

重点を「あいさつ」に絞り、より重点化させるか、「礼儀」も入れ、それぞれ積極的具体策を打ち出すか？

目指す児童像2 互いによさや努力を認め合い、思いやりのある子

○重点「異年齢交流で思いやりリーダーシップの育成」成果はB2（ベスト2）で継続。高学年のリーダーシップ育成の機会を増やしたい。

○重点「ありがとうの木を活用した認め合いができる子の育成」は継続。常時活動の位置付けを検討。

○重点「道徳的実践力の育成」成果はW2。道徳の授業研究や重点項目（思いやり・親切）を意識した年計作成など、計画的・組織的取組が必要。

目指す児童像3 人と積極的に関わり、考えを広めたり深めたりし、学び合いができる子

○重点「音読や暗唱など、人前で声を出す機会を積極的・計画的に持つ」成果はB1。継続し、今後も機会を増やし、自信を持たせたい。

○重点「発表や質問・意見の機会を積極的・計画的に持つ」成果はB3。継続し、授業の中でも発表や意見交換の場を全校で積極的に持つ。

○重点「学んだことや調べたことを効果的に伝えるプレゼンテーション力の育成」は継続。i-PadなどICT環境の整備と共に、発表の質の向上を図りたい。

○重点「意見交換や学び合いの場の位置付けと、主体的・協働的な課題解決力の育成」成果は、集会等で機会を設け、向上が見られるが、より意図的な取組が必要。研究授業等で、授業における意見交換や話し合いのさせ方について、研修していくことが必要ではないか。重点の2と4は内容が近いので統合

○重点「多様な人とのふれ合いなどによるコミュニケーション力の育成」は、総合・社会・修学旅行・ふるさと交流・授業支援等で機会が増え、成果が見られた。今後も活用事例の記録を充実させ、継続した取組が必要。

目指す児童像4 めあてに向かって努力し、成長する子

○具体的めあての設定と、取組の反省・評価、努力の賞賛は、運動・健康面だけでなく、学習・生活面でも、子どもたちの意欲・努力の向上には有効。体の分野に絞るか、学習も含めるか検討。

○同様に、ここで家庭との連携を重点に挙げているが、家庭連携も生活チェック・読書と家庭学習等、活用カードも複数有り、整理が必要か。

○重点「めあてに向けた定期的振り返りで、努力を認め賞賛する」と、重点「努力・成長が実感できる検定・達成の目標設定」は統合。努力を促す具体的目標の設定・紹介・助言と、定期的振り返り、努力の賞賛は、今後も継続。

○重点「がんばりカードの活用」は、学年初めに、検定・達成・合格などの努力目標設定とともに、年間通した活用計画を立て、煩雑にならない効果的活用を検討する。

○重点「家庭と連携しためあて達成の賞賛と支援」成果はW1。家庭連携を重視し、新たに項目立てをするか？具体策策定が必要。PTA等からも意見を募りたい。家庭学習強調週間は、ノーマディアデー実施と共に意識化が図れ効果あり。

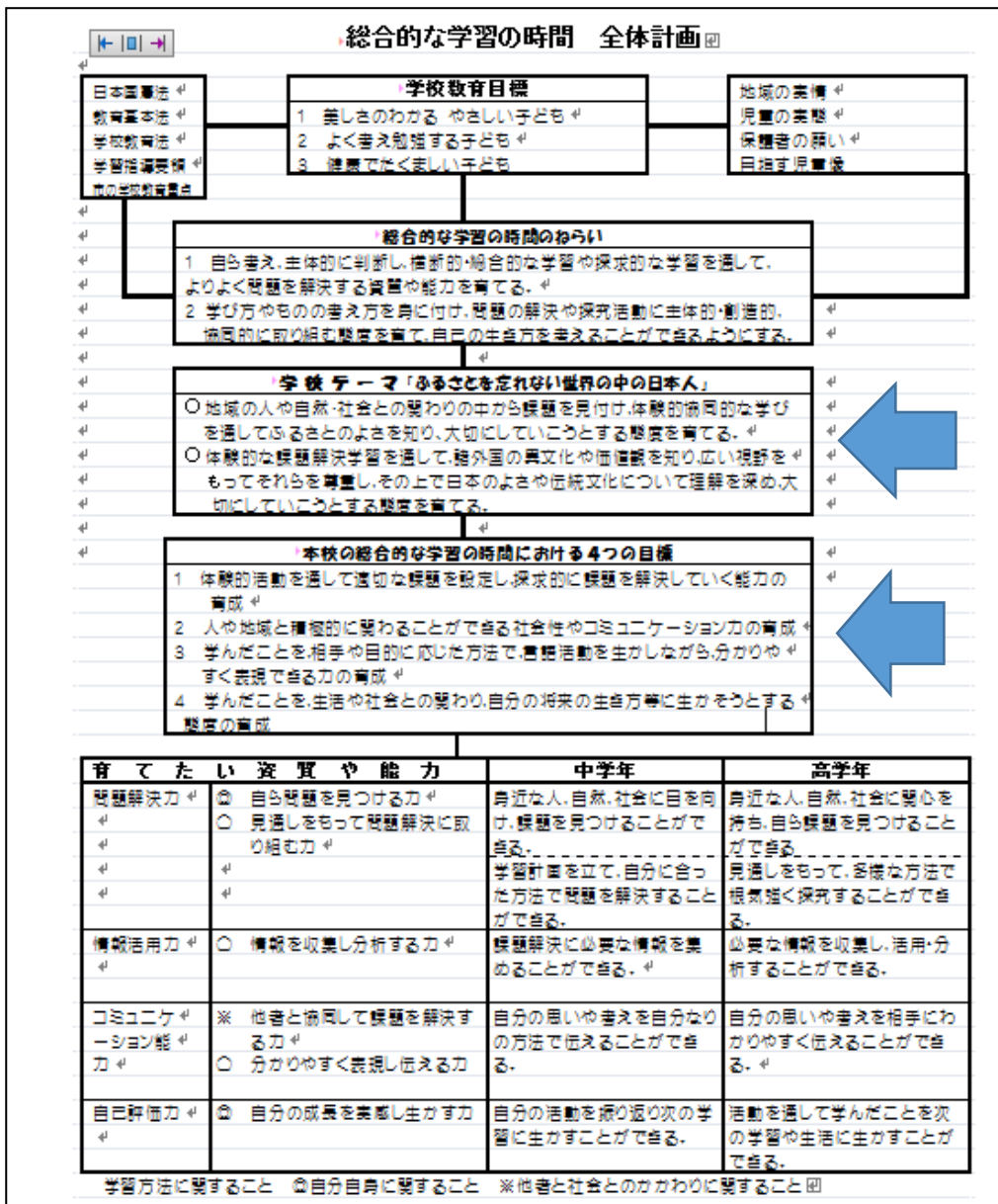
## 8 総合的な学習の時間を、学校全体で見直す

チームで取り組む特色ある教育活動の実践のため、「総合的な学習の時間」の学校全体での見直しと工夫・改善は、重要なものであると感じている。総合（総合的な学習の時間）は、外国語教育の教科化に伴う時数削減により、その充実が心配されている。しかし新学習指導要領では、総合のより一層の充実が明記され、総合の扱いも、「探究的な学習の過程を一層重視し、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活において活用できるものとする」とともに、各教科等を越えた学習の基盤となる資質・能力を育成する」ものとし、各学校においても、「総合的な学習の時間の目標を実現するにふさわしい探究課題を設定するとともに、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を設定する」よう求めている。そこで本校では、本年度総合の大幅な見直しを行い、総合の全体計画に、①学校教育指標である「ふるさとを忘れない世界の中の日本人」を学校テーマとして位置付け、②学校の目指す児童像や新たな教育課題から、総合でその育成を図りたい4つの目標を加えることとした。

学校テーマからは、地域学習が主体となる3～4年生だけでなく、全学年を通してふるさとのよさを

知り、歴史や文化・人とのつながり等を大切に育てていこうとする態度や、諸外国の異文化や価値観を学んだ上で、改めて日本の伝統文化を大切にしていこうとする態度を育むことを大きなねらいに位置付けた。また、(体験活動)(人との関わり)(発表・表現力)(生活・社会との関わり)の育成を総合の4つの目標として改めて掲げ、それらをもとに各学年の単元計画やねらい・活動の見直しを行った。

総合はH10年の指導要領改定で新設され、教科横断的、探求的な学習を



通して児童が主体的に学び判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成することを目標に位置付けられ、国際理解・情報・環境・福祉・健康など横断的・総合的な課題が例として挙げられた。各学年にこれらの課題をバランスよく振り分け、各教科・行事等の関連を図りながら、単元計画等を作成した学校が多いと思うが、文科省の「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」(H22.11)にも記されているように、総合は各学校のカリキュラム・マネジメント力を高め(試され)、子どもの探求的・協同的・体験的学びを促進し、地域や人との関わりを広め・深め、思考力・判断力・表現力を育む価値ある学習活動である。各学校での特色ある教育活動展開のために、この学校全体での総合の見直しと改善は、大変重要な作業であると思う。

本校での具体的見直し・改善内容は、次の通りである。①2～6年までを通してふるさと学習を位置付けた。2年生生活科では地域にある施設やお店などを小グループで見学してお話を聞き、3年生は、地域の自然・寺社・歴史・特産物など課題別に見学したり地域の方からお話を聞いたりし、4年生は栃木蔵の街を、伝統・文化・観光・街づくり等課題別に見学して調べ、5年生は日光の世界遺産と街について、また6年生は修学旅行の鎌倉を、栃本市と比べながら現地調査し、関連や違いなどについてまとめていった。学校として「ふるさと」を大きなテーマに設定することで、課題意識を持って主体的で段階的・発展的な学びができた。②国際理解については、諸外国のことを本やインターネットで調べ理解するだけでなく、外国の人を招いて直接話を聞いたり、日本の伝統や文化を合わせて学ぶことで、国際理解をより深めた。③全ての学習において、「課題設定」「現地調査や体験学習など多様な情報収集」「場所や物を見学するだけでなく土地の人との関わりを重視(インタビューなど)」「相手に伝わる発表の工夫」などを重視した活動計画の改善を行った。何度かの検討会を経て、H29年度の総合の活動計画は、次のように改善された。今後も評価・反省に基づく見直しは必要であろう。

	テーマ	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3年生 50時間	ふるさと探検隊	総合的な学習ガイダンス		地域のよさ発見 (お寺や神社・自然・歴史・特産物・人など) ②公民館・地域の方から ③課題別学習 ④地域の名人から学ぶ ⑤体験しよう				①資料・家族から		2年生に伝えよう(発表会)		
4年生 50時間	地域・福祉 1/2成人式	蔵の街栃木のよさ発見 (伝統・文化・観光・街づくりなど) ①蔵の街のよさを発見しよう ②伝統を守る努力・新しい魅力		みんなに優しい社会に向けて(福祉学習) ①福寿園訪問 ②障害者体験 ③お話を聞こう ④誰もが暮らしやすい世の中			太平少年自然の家 宿泊学習		1/2 成人式 ①自分たちの夢や職業を考える			
5年生 70時間	地域・環境 臨海 6年生に向けて	臨海自然教室		日光の世界遺産 見学 インタビュー						6年生への準備		
6年生 70時間	伝統文化・国際理解 キャリア 修学旅行 卒業に向けて	日本の伝統文化 体験 日本のよさを伝えよう		国際理解 課題に沿って調べよう(歴史・文化・習慣・料理・学校・遊びなど)		修学旅行				卒業に向けて		
								キャリア教育 ①自分の将来や夢 ②様々な仕事や働く人 ③生き方				



本年度総合ふるさと学習として取り組んだ3年生「ふるさと探検隊」での地域特産「さしも草」と「宮ねぎ」の学習、新たに企画した4年生の「蔵の街とちぎのよさを発見しよう」について紹介したい。



3年生「ふるさと探検隊」では、百人一首の「かくとだに えやは伊吹の さしも草 さしも知らじな 燃ゆる思ひを」と歌われた「さしも草」について、その実物を見ていわれを教えてもらおうと、吹上公民館に出掛け、茂木館長からお話を伺った。現在

さしも草は公民館や限られた場所で育てられ目にする機会が減ったが、染色やその風味を生かし和菓子作りなどにも使われていることを知ることができた。和菓子「かのご庵」の福田さんからは、地域の素材を生かした菓子作りをとの願いから、「さしも草」を使ったお菓子作りについてのお話を伺った。



また地域特産の「宮ねぎ」についても、今

までは生産農家を訪ね見学するのみであったが、本年度は栃木農業高校からの提案もあり、本校の畑で宮ねぎの定植から管理・

収穫までを、高校生と協力しながら行っ

た。

宮ねぎは出荷までたいへん手間がかかり、地域生産農家も激減してしまっただが、江戸時代から続く地域の特産品であり、何とかその伝統や育成法を伝えていきたいという願いも強い。収穫後は宮ねぎ入りお好み焼きを高校生に手伝ってもらいながら調理し味わい、地域の伝統を大切にしていこうとする気持ちが育ったように思う。

4年生では、ふるさとを、地域素材の豊かな蔵の街とちぎに広げ、ねらいを「蔵の街とちぎの伝統や文化を守り継承に努力している人々や、観光や街づくりにより地域の活性化に努力している人たちに会い、話を聞いたり、質問したり、見学したりすることで、自分たちのふるさとを見つめ直し、地域についての自分の思いや考えを深め、地域の一員として自分自身を見つめることができるようにする」とし、新設で「蔵の街とちぎのよさを発見しよう」の単元を起こした。

はじめに全体で、栃木市観光ボランティアの方から、蔵の街とちぎの魅力やよさについて概略を教えていただき、それをもとに、課題別コースに分かれ、見学したい場所のなどをグループで協力して調べ、見学や質問したいことをまとめた。見学コースは、①蔵の街コース（あぶでん・岡田記念館・大兵工務店など）②歴史コース（神明宮・山車会館・観光協会など）③観光コース（五十畑荒物店・和菓子の山本・蔵の街遊覧船など）に分かれ、事前に歩くコースを決めて電話等でアポイントを取り、当日は、ふれあいバスと徒歩で見学地を巡った。また安全面を考え、保護者の引率ボランティアにも協力をお願いした。

今回の見学は、社会科の見学と目的が異なり、自分たちの課題に基づき、現地調査や人から学ぶことを基本とし、地域の方の歴史や文化・街づくりへの思いなどを知りながら、自分たちのふるさとでのよさを知り大切にしていこうとする心情を育てることをねらったものであり、子どもたちからも、各見学地ではたくさんの質問が出され、学びや思いを深めるよい機会になったと思う。また引率した保護者からも、地域の伝統・文化やよさ、人々の思いなどを知ることができて本当に勉強になったとの感想をいた

だいた。



1



2



3



4



5



6

1 「和菓子の山本さん」店舗 2 階で和菓子作りを見学 2 嘉右衛門町楡井邸の蔵補修作業現場にて大兵工務店の方からお話を聞く。 3 市役所観光振興課で栃木の伝統・文化保存や観光についてお話を聞く。 4 「富士屋さん」でお店の歴史や観光に訪れる人の話を聞く。その後名物の小倉アイスをいただく。5 「油伝さん」で、お味噌造りや嘉右衛門町伝建地区・例幣使街道のお話を聞く。油伝さんの蔵の一つは質屋として使われていたことも知る。6 この日はあいにくお休みだったが、明治22年から続くレトロな玉川湯（金魚湯）の前で。

## 9 おわりに

職員・児童・保護者・地域の方々が、どのような子どもを育てていきたいのか、目指す児童像を具体的に共有し、その育成に向けた具体策を実践し、きめ細かな評価・反省を生かし、みんなが参画意識を持って改善に取り組んでいくことで、少しずつではあるが、目標に近付くことができると思っている。そして、その工夫や努力の過程において、自然と学校としての一体感やマネジメント力、特色のようなものが生まれてくるのではないだろうか。

学校は今現在抱える様々な課題（不登校やいじめ問題、特に支援を要する子どもたちへの対応など）や、新しい課題（道徳や英語、新学習指導要領の移行措置など）にも対応していかなければならず、また働き方改革で余計なことには時間もあまり掛けられず、全校体制で、意欲を持って新たな取組をしていくことが大変困難な状況であると思われる。しかしながら、みんなが同じ目的（ベクトル）を目指して取り組むことは、子どもたちの成長と共に、学校組織の、そして自分自身の財産になるのではないだろうか。